⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

- **安全のための注意事項を守る**
- **故障したら使わずに、ソニーの相談窓口へ相談する**
- **万一、異常が起きたら**

変な音やにおい、煙が出た場合は

1. **ビデオカメラの電源を切る**
2. **ソニーの相談窓口へ相談する**

警告表示の意味

取扱説明書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号　行為を禁止する記号

⚠警告 下記の注意事項を守らないと、火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

点灯したまま放置しない

放置したまわりの状況によっては火災の原因となることがあります。使用しないときは必ずビデオカメラの電源スイッチを「OFF」にしてください。

ビデオカメラに取り付けたままケースに収納しない

万一誤ってビデオカメラの電源スイッチおよび本機のスイッチが「ON」になると、発煙、発火の原因となることがあります。

点灯中と消灯直後のランプにさわらない

ランプ及びその周辺は非常に高温になるのでやけどの恐れがあります。ランプの交換や収納は充分に冷えてから行ってください

指定以外のランプは使用しない

火災の原因となります。

放熱孔をふさがない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となります。

紙や布などの燃えやすいものを近付けない

火災の原因となります。

湿気やほこりの多い場所では使わない

感電や火災の原因となることがあります。

アルコールやベンジンなど揮発性、引火性の高い薬品を近付けたりライトの近くに置いたりしない

発火、発煙の恐れがあります。

分解しない

内部には電圧の高い部分があり、分解したりすると感電の原因となります。
内部の点検などはソニーの相談窓口にご相談ください。

内部に液体をこぼしたり、燃えやすいものや金属類を落とさない

そのまま使用すると、火災や事故、故障の原因となります。

⚠注意 下記の注意事項を守らないと、けがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

熱くなったガラスに水などをかけない

破損し、けがをすることがあります。

点灯中のランプやフラッシュを直接見ない

強力な光は目をいためる恐れがあります。

取り扱い上のご注意

- 点灯中のライトにショックを与えないでください。ランプが切れたり寿命が短くなったりすることがあります。
- 本機を持って、ビデオカメラを持ち上げないでください。
- バッテリーをビデオカメラと共通に使用していますので、ビデオライト使用時は、撮影時間が通常撮影時より短くなります。
- 本機をご使用の際、"インフォリチウム"バッテリーと"インフォリチウム"対応のビデオカメラをご使用の場合、ビデオカメラのバッテリー残量表示が正しく表示されないことがあります。
- ビデオカメラがホログラフィックAF動作時にフラッシュがポップアップする機種の場合、ホログラフィックAFをOFFにしてお使いください。
- 動画の撮影中にはフラッシュは動作しません。

お手入れのしかた

時々、柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤溶液を少し含ませた布でふいてから、もう一度からぶきしてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げをいためますので使わないでください。

主な仕様

電源電圧　DC 7.2 V
消費電力　3.5 W

ランプ部

ランプ　DC 6 V/3 W
最大光度　約100cd
照射方向　水平
照射角度　20度
ランプ点灯時連続録画時間（フラッシュ不使用時）

バッテリー ＼ モード	ファインダーで撮影時（DCR-TRV50使用時）	液晶画面で撮影時（DCR-TRV50使用時）
NP-FM50	約55分	約50分
NP-QM70	約115分	約100分
NP-QM91	約200分	約180分

（上記はそれぞれのバッテリーが充分に充電されている場合の、おおよその時間を示しています。）

撮影距離　1m：約100ルクス
2m：約25ルクス
3m：約12ルクス
色温度平均　3,000K
ランプ寿命　約100時間

フラッシュ部

フラッシュ寿命　約1,500回
ガイドNO.　14相当（メモリーフォト時）

その他

外形寸法（最大突起部を除く）　約35 × 69 × 53 mm（幅/高さ/奥行き）
質量　約70 g
同梱物　ポーチ（1個）、印刷物一式
別売アクセサリー　交換用ハロゲンランプ、XB-3D

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書について

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービスについて

調子が悪いときはまずチェックを
この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは
ソニーの相談窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- **型名**：HVL-FDH4
- **故障の状態**：できるだけ詳しく
- **購入年月日**

SONY®　3-074-943-**04** (1)

ビデオフラッシュライト

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

HVL-FDH4

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

Intelligent Accessory Shoe

このマークの商品は、ソニー（株）のビデオ機器の"インテリジェントアクセサリーシュー"システムに対応しています。このシステムを搭載したビデオ機器とアクセサリーを組み合わせることにより、目的に合わせた効果的な撮影が簡単に行えます。

主な特長

- ビデオカメラに取り付けて使う、フラッシュとライトの機能を兼ね備えた、1台2役のビデオフラッシュライトです。
- インテリジェントアクセサリーシュー付きのビデオカメラに対応しているため、電源はビデオカメラ側から供給できます。
- ライト部は、ビデオカメラのスタンバイ／ロックに連動して電源のON／OFFができます。また、暗くなると自動的に点灯するAUTO機能を備えています。
- フラッシュ部は、フォトモード機能付きビデオカメラのフォトモード撮影に対応しています。また、被写体との距離に合わせて光量を調節するため、撮影した映像が白く飛んでしまうのを防ぎます。

よくあるお問い合わせ、解決方法などはホームページをご活用ください。
http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口
フリーダイヤル ……… 0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話 ……… 0466-31-2511

修理相談窓口
フリーダイヤル ……… 0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話 ……… 0466-31-2531
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「400」+「#」
を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX（共通）0120-333-389
受付時間 月～金:9:00～20:00　土・日・祝日:9:00～17:00

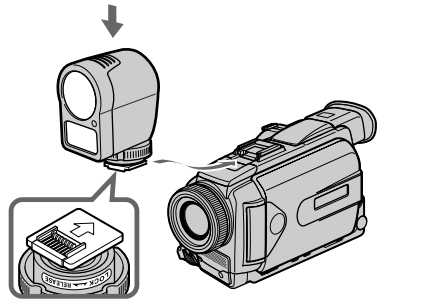
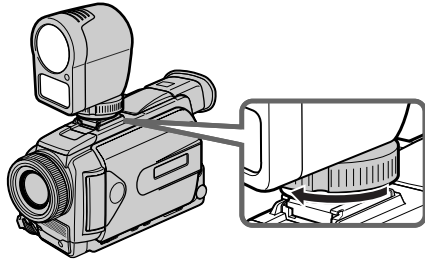
ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/

この説明書は、古紙70%以上の再生紙と、VOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

取り付ける

本機をビデオカメラに取り付ける際は、本機の電源スイッチが「OFF」の状態で行ってください。

1 ビデオカメラのインテリジェントアクセサリーシューに、本機の裏面にある矢印の方向にあわせてつきあたるまで差し込む。

2 固定つまみをカチッと音がするまで「LOCK」側に回し固定させる。

取りはずすとき

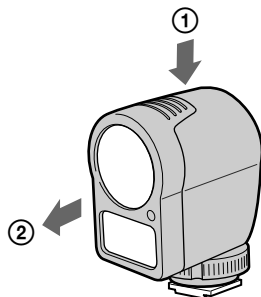
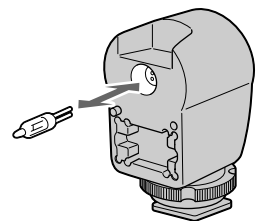
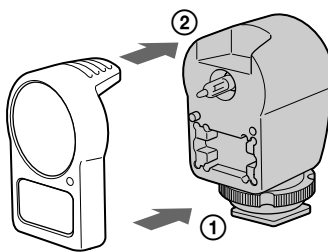
1 本機の電源スイッチを「OFF」にする。
2 固定つまみを「RELEASE」側に回してゆるめる。
3 上から押しながら前に引き出してはずす。

ご注意

- 本機が差し込めないときは、固定ツマミを「RELEASE」側に止まるまで回してください。固定ロックが解除されます。
- 本機を逆に差し込まないよう、矢印の方向を確認してから取り付けてください。
- ビデオライトは270°回転します。お使いになる方向にあわせて回転させてください。

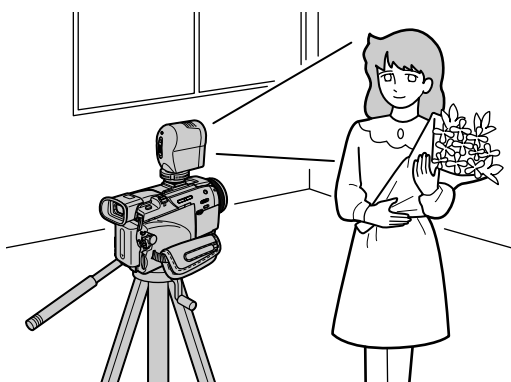
ランプを交換するには

交換用ランプはソニーハロゲンランプ、XB−3D（別売）をお使いください。
点灯中に切れた場合はランプ本体が冷えてから交換してください。

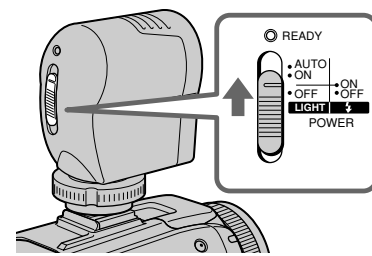
1 本体が冷えたことを確認後、フロントカバーをはずす。
①を矢印の方向に押し、ロックツメをはずす。
②の矢印の方向に引っぱってはずす。

2 ランプが充分に冷えてからランプの根元をもって差し替える。
ランプの根元の差し込み口にまっすぐに抜き差しする。

3 反射板の穴にランプが入るようにしてフロントカバーをまっすぐに取り付ける。
①フロントカバーを①の部分に合わせる。
②の部分を矢印の方向にツメがロックするまで押す。

ご注意

- 点灯中に切れたランプは、高温になっています。ランプが冷えてから交換してください。
- 新しいランプは直接手で触れずに、乾いた布などでくるんで取り付けてください。ランプの表面に指紋や汚れが付いたときは、きれいに拭き取ってください。
- 内部には電圧の高い部分があり、分解したりすると感電の原因となります。
- 内部の点検などはソニーの相談窓口にご相談ください。

被写体へのライトの当てかた

- 室内撮影などに使用すると、被写体をきれいに写せます。
- 広角の画面撮影時には周辺の光量が不足します。その時は中央の被写体に効果的なスポットライトとしてご使用ください。
- 逆光の場合、ライトを併用すると、被写体の大切なポイント（人物の顔など）が暗くなりません。屋外撮影では、カメラを太陽に向けないようにご注意ください。室内照明が蛍光灯の場合、画像にちらつきがでることがあります。ビデオライトを併用すると色ムラが消え、比較的きれいな画像になります。

ビデオフラッシュを使う

フラッシュはフォトモード機能付きのビデオカメラで使えます。
ここではDCR-TRV50を例に説明しています。ビデオカメラの詳しい操作については、お手持ちのビデオカメラの取扱説明書をご覧ください。

1 ビデオカメラの電源スイッチを「カメラ」にする。
メモリースティックに静止画をとる場合は電源スイッチを「メモリー」にしてください。

2 本機の電源スイッチ ϟ を「ON」にする。
本機が充電を始め、READYランプが点滅します。充電が完了すると、READYランプが点灯に変わります。

3 ビデオカメラのフォトボタンを軽く押したまま画像を確認する。フォトボタンは軽く押したままにしておく。
フラッシュがフォトボタンに連動して発光します。画像が静止画になり、メモリー表示が出ます。このとき記録はされません。
画像を選びなおすときはフォトボタンを離します。フォトボタンを離すと、本機は再び充電を始めます。READYランプがついてからもう1度フォトボタンを軽く押してください。

フォトボタンを押すと、ビデオカメラが明るさを自動調節するために、画像が暗くなったり、色が変わって見えることがあります。

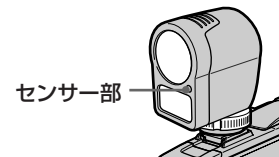
4 ビデオカメラのフォトボタンを強く押し込む。
フォトボタンを押し込んだとき、バーのスクロール表示が終わると、記録が完了します。記録中は取り込んだ画像がファインダーまたは液晶画面に出ています。
フォトボタンを離すと、画像の記録後、本機は自動的に充電を開始します。

使い終わったら

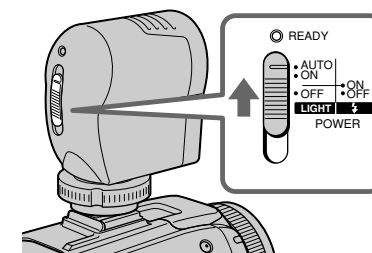
本機の電源スイッチを「OFF」にする。

ご注意

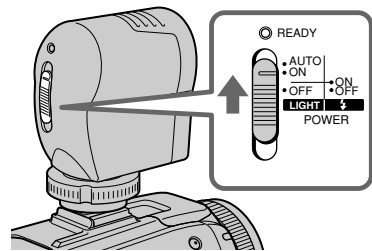
- ビデオフラッシュと被写体との距離は、暗い部屋で約1〜5mが目安です。
- 撮影時、本機のセンサー部を指などでふさがないでください。被写体との距離がわからなくなり、光量を調節できなくなります。
- 本機はバッテリーをビデオカメラと共通に使用しています。バッテリーの残量が少なくなると、充電時間が長くなります。

- 本機が充電されたあとでも、次の場合には使用時に再充電されます。
  −本機の電源スイッチを「OFF」にしたあと
  −ビデオカメラのスタンバイスイッチを「ロック」や「スタンバイ」にしたあと
- 本機は赤目防止機能（人物の目が赤くなることを防止する）を搭載していますが、お手持ちのビデオカメラの仕様によっては、この機能は働きません。

ビデオライトを使う

暗い場所で自動的に点灯させるとき

1 本機の電源スイッチを「LIGHT AUTO」にする。

2 ビデオカメラをスタンバイ状態にする。
撮影時、暗い場所では自動的にライトが点灯します。
撮影スタンバイ中は約5分たつと自動的に消えます。
点灯中に消すときは、ビデオカメラを「切」または「ロック」にします。

ビデオカメラのスタンバイ状態と連動して点灯させるとき

1 本機の電源スイッチを「LIGHT ON」にする。

2 ビデオカメラをスタンバイ状態にする。
連動してライトが点灯します。
消すときは、ビデオカメラを「切」または「ロック」にするか、本機の電源スイッチを「OFF」にします。

使い終わったら

本機の電源スイッチを「OFF」にする。

ご注意

- ビデオカメラのスタンバイ状態が長いとバッテリーの消耗が早まります。こまめにスタンバイ状態を「切」または「ロック」にしてください。
- ご使用にならないときは、付属のポーチに収納してください。
- 収納するときは、本機が充分に冷めているのを確認してください。